

きった口調で言った。セレナは謝った。

「そうよ。隣にいただけで気分が悪くなる。あなたみたいなブスで頭の悪い人に友達なんかいるのかしら」

側にいたエリカの仲間も言った。

「ふっ。当たり前よ。だれも友達なんかに成りたくないわ。エリカが優しすぎるから、こうして邪魔してくるんでしょ」

もう一人は鼻で笑いながら言った。周りはいきなり
ばくしょう
爆笑した。

その中のたった一人の女の子が罪悪感を覚
えたのか、俯うつむいて両手りょうてを胸の前で合わせていた。

